課外講座「福祉体験学習」施設実習を終えて

福祉施設への就職や、福祉に関わる上級学校への進学を希望している生徒を対象に5月下旬からスタートした課外講座福祉体験学習における施設実習が、町内の特別養護老人ホーム夕陽ヶ丘苑で行われました。施設実習に入る前に、数回にわたり、同施設で基本的なことを講義等で学び、8月6日（月）～10日（金）までの5日間は、初めて利用者の方々の前に立たせていただき、介護従事者としての仕事を、体験しながら学ばせていただく機会となりました。

初日、参加した 3 年生は、職員の方や利用者の方と、どのようにコミュニケーションをはかったらよいかわからず、不安な気持ちがそのまま表情にあらわれている様子でした。そのような中､職員の方々が一つひとつ丁寧に説明をして下さったり､ご自身の経験から得たコツなどを教えて下さいました。また、利用者の方は、体験生を孫のことのように温かい目で見て下さり、名まえを覚えて呼んで下さいました。

おかげ様で、体験生は日を追うごとに自分らしい表情で学ぶことができ、それぞれの目標に基づいた取り組みをおこなうことができました。

数多くの失敗もありました。周りの方々が温かく接して下さることに甘え、ついつい応答の際「うん」とうなずいたり、馴れ合いで会話を交わすことで立場にけじめがなくなることもあり、“職場”と“学校”との違いを感じていました。また、一つひとつの連絡や報告が、伝わっているだろうという自分の思い（願い）だけで、それがスムーズにいっていないこともあり、周りと関わりながら事を進めていく上での「ホウ（報告）レン（連絡）ソウ（相談）」の重要さも痛感していました。これらは、どこの職場であっても大切であり、言葉ではない経験から得た知識でした。

もともと体験前に「お世話がしたい」「介護技術を習いたい」と話していた生徒が、職員や利用者の方々との関わりを深めることにその日の目標を立てるなど、人との関わりについて積極的に自分を見直しているのを見て、学校だけではなく、地域の方々のお力添えをいただいて学ぶことの大切さを改めて実感しました。

夕陽ヶ丘苑の職員の皆様、利用者の皆様、本当にありがとうございました。